

一般 小学校のこれからとまちづくり

坪井 仲治（みどり21）



近い将来、少子化により小学校1校あたりの児童数が70人未満となり、1学年につき1クラスが維持できず、複式学級が存在するレベルになる可能性がある。来たる小規模校時代に向けての小学校のあり方と当該地域の自治会の問題について質問した。

現在、複式学級の学級編成をしている小学校はないが、近い将来、複式学級や統廃合の必要が出てくる。現時点での検討状況と今後の進め方は。

今後、児童数の減少と小規模校の増加が見込まれ、複式学級の発生も想定されるため、教育委員会では、有識者や地元教職員で構成する「菊川市学校の未来を考える会」において、望ましい教育環境確保のための方針案の作成を進めている。現時点では、統廃合ではなく、ICT機器を活用するなど、教育方法を工夫することで、各学校における多様な学びの機会を確保し、質の高い教育を提供していくことを考えている。本年度は、「学校の未来を考える会」の委員に、学校運営協議会委員も加

えたうえで、来年度実施する地域との意見交換に向けた準備を進めている。これを踏まえ、来年度は、学校運営の将来像について、地域との意見交換会を行い、具体的な方策策定へつなげていく。

小学校統廃合までのプロセスは。従来の通学区の区域を残したまままでの小規模特認校制度の採用による複式学級の抑制、複式学級の導入、統廃合の順番となる。



一般 こどもの生理に寄り添う

松永 晴香（みどり21）



毎月の生理に不安を感じながら登校しているこどもたちが菊川市にいる。こどもたちの学び環境を守るため、生理について正しく学び、理解し、支え合える社会を作りたい思いから質問した。

小中学校において、児童生徒が初経を学校で迎えた際の対応マニュアルや体制は整備されているか。今後、地域展開される部活動の関係者などに、教育に携わる者として、研修を行うべきではないか。

初経の対応に関する統一的なマニュアルや指導手順は設けていない。学校に関わる方々に生理についての理解を得るということは、大変重要だと考えている。今後展開される地域活動の指導員研修会の中で、初経や月経に関する知識、対応について学ぶ機会を設けるようにしていく。

文部科学省より、月経に伴う症状等に適切に対応するよう通知されているが対策は行ったか。

養護教諭が児童生徒から生理痛等の症状による相談があった際に受

診を促す取組を行っている。今後、保健調査票に、「月経に伴った服薬が必要である」や、「月経に伴う腹痛により部活動の見学を希望します」など記入できるよう対応していく。

女子トイレへの生理用品（ナプキン等）の常設を進める考えはあるか。

女子トイレへの生理用品の常備については各学校の実情に合わせて取り組んでいきたいと考えている。

